

成人座談会

青年の皆さんに 期待します。

今年には国際青年年です。未来を築く—それはいつの時代も青年の役割です。家庭、地域社会、国際社会など青年を取り巻く「社会」はさまざまですが、青年が自らの意思、判断、活動によって積極的に社会参加を進めていくことが求められています。小須戸町では、今年も男性六十七名、女性六十九名、計百三十六名が成人を迎えます。

八月十五日に成人式が行なわれますが、それに先立ち七月十九日に20才になる若者八名が集まっていたいただきました。今回は、町長からも参加してもらい、町の行政に関する質問や要望なども話されました。この会を有意義なものとするために事前の打合せ会もつたり、成人者の代表の方が司会を務めるなど、成人者の方々が主体的に運営し文字どおり、自分たちの座談会だったと言えます。



- ### 座談会出席者
- 司会 鈴木勇一(中央町1) 加茂病院勤務
 五十田博(中央町4) 新潟大学工学部2年
 上田美恵子(矢代町11) 森平医院勤務
 木伏孝行(矢代町6) 国鉄勤務
 佐藤文子(うでこき2) 小嶋地区病院勤務
 氷見正樹(本町5) 農協勤務
 丸山浩規(新保1) 丸山メリヤス勤務
 水沢晴子(花園町1) 労働金庫勤務
- 町長 豊田奈賀雄
 公民館主事 水沢喜代志



鈴木勇一さん

—せっかくなので機会ですので、町のことに付いて町長さんに聞きたいこと、質問などありましたらどうぞ—

●今年、私達も二十才で成人式を迎えるということ、町の政治などにも参加することになると思うのですが、今まで、現在の町の情勢についてあまり知らなかったんです。もっとくわしく教えていただきたいのですが、例えば税金の使い道などですね。

〈町長〉税金がどんな風に使われているかということですね。町に入ってくるお金というのは皆さんからの税金、それから国からの交付税があるんですね。他には、仕事をするために国は補助金をくれます。例えば今、小須戸小学校をつくっています。補助金は学校をつくるためにももらったのだから学校をつくるためだけにしか使えないことになりません。

—現在やっている事業の他に今後やっていきたいと思ってることはありますか—

〈町長〉山の手方面に運動施設や建物をつくりたいと思っております。

矢代田小学校の前に用地取得が終わって地ならししてあります。あと国道四〇三号線です。三条・新津間の県道が国道になったことはわかりますか？

新保と矢代田の間にある排水路に沿って新津までパイパスを通すことです。パイパスができると大町も変わってくるんじゃないかと思えます。できれば団地でも作って工場を誘置したいという考えはあるわけですが、これは優良農地のところですから、むずかしいだろうと

●話が前後しますが、先程出た工場誘置のお話で、今、学校へ行っている身としては、小須戸町にどういった企業がくるのかということによって働き口が変わってきます。県外へ行くということも考えられるし、企業によっては、こちらに残ることも考えられます。でも企業がくるとなると地元の人達の反対もあると思うのですが、そちらの方が強くて、今までにもその話があったと思うので、すけれども実現するのでしょうか。



丸山浩規さん

木伏孝行さん

佐藤文子さん

う用途指定してあるんですが、そこへ工場が立つてくれるというのが、いいのですけれども、なかなか色々な問題、土地の値段の問題もそうですが、あるわけです。都市計画の線引きをしてから何年もたっているんですけれども、ほとんど開発されていないというのには残念なことですね。どういふ企業がくるかと言えば、基本計画をつくる時、新潟のベッタウンというのを第一においたんです。工場としては、公害のない工場をもってこようと考えています。大きくなってますね。

●先程 新潟市のベッタウンと言われたのですが、そうなる道も、道路だけでなく町までのびるとかいうことはないので、バスだけでは不便

〈町長〉ベッタウンという考え方をすれば、もちろん国鉄も考えなくてはならないし、道路が整備されれば、マイカーということもできますし、結局、新潟へ向かう交通網ですね。残念ですが、最近では新潟交通でも路線の再編成をやって、新潟へ向かうバスが減りました。当初は、酒屋までうち切ろうという話だったので、それで、酒屋というところで陳情などして、酒屋での分断は避けることができました。

〈町長〉確かにそうですが、今、二番町の皆さんが一応これではダメだということで、経営診断というところで今後の計画もされ、町でも補助金を出して調査をした成果も出てきています。ただ、なかなか商店街としては調査結果に基づいた対応がむずかしい状態になっているんですね。

●きっかけが必要だと思います。去年はこんないい成人式だったから、今年は俺たちももっといい成人式にしたい、こうとかいう方向になればいいですね。

●教育委員会と公民館で話をしているというのはいかがでしょうか、私達には届いていないんですよ。だから、毎年同じ様になると思うんです。講演はあってもいいですが、中学時代、仲の良かった子だけでなく二十才になれば、それほ仲のよくなかった子とも気軽に話せると思うんです。みんなのコミュニケーションが必要だと思います。

いますけれど、「思い出に残る」と言った場合、必ずそうなるのかなという気もします。高校を卒業するときは、高校三年間終わったという節目になりました。成人式はそんな気がしないんです。そんなことを考えるとむずかしいと思っんです。

約一時間の座談会の中で、ここに紹介した以外に、町のスポーツ施設やサークル活動について、これからの町の人口対策などを活発な質問や意見が出されました。青年をとりまく情勢は、経済や社会の中で様々で、一見無気力、無関心と受けとめられがちな青年像もある中で、この討議の内容をみると、成人を迎え表には出さなくても真摯な態度が見られます。最後に一人一人が決意を述べあい、八月十五日の成人式にまた会う約束をして解散となりました。

成人式のご案内

とき 8月15日(木)
 ところ 小須戸町中央公民館

8:30 受付
 9:00 式典
 9:30 記念講演
 「北の国の隣人たち」
 (佐藤江一郎氏)

11:30 記念撮影



●今、工業や交通網の話が出ましたけれども、商業の面から言っても、町に活気がないとか、商店街も八時くらいになると歩いている人が減って、歩いていても

—成人式のあり方についてはそれぞれどう考えているのでしょうか。—

ちなみに津川では、自分たちで実行委員会をつくり独自の成人式にしようというパーティー形式

●パーティー形式も楽しいと思